

全学共通科目、外国語科目（英語）、外国語科目（英語以外）、保健体育科目 「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

全学共通科目の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

全学共通科目は、豊かな教養と高い倫理性を備えた人間を育成することを目指して、本学に所属する教員が総力を結集し、幅広い学問分野を基礎とした多様な内容の授業を提供する。

1. 教育内容

- (1) 全学共通科目は、人類が長い歴史を通じて探究し積み上げてきた学問の体系と方法を教授するとともに、健康な心身を育むための「基本科目」と、人類の社会と生活に密接に関わる課題を通して現代世界への問題意識と異文化への理解、総合的な判断力を育むための「課題（テーマ）科目」に大別される。
- (2) 「基本科目」は、A系：人間と文化（人文系）、B系：社会と生活（社会系）、C系：自然と環境（自然系）、D系：健康とスポーツ（保健体育系）、E系：知識創造と実践（総合系）の5系統に属する科目群から構成される。これらの履修により、どの学部・学科で学ぶ学生も、学問研究を支える基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野が得られる。
- (3) 「課題（テーマ）科目」は、第1群（地域・国家・民族の考察）、第2群（女性・子ども・老人への視点）、第3群（人権・民主主義・平和を考える）、第4群（現代社会の諸問題）、第5群（異文化・世界にふれる）、第6群（自己・人間をみつめる）、第7群（キャリアデザイン）、第8群（インターンシップ）、第9群（全学共通特殊講義）の計9群から構成される。これらの履修により、現代社会で生活する中で不可避の諸課題を、学問の枠にとらわれずに追究・深化できるようになり、また専門教育への動機づけが得られる。

2. 教育方法

全学共通科目はその性質上、内容が多岐にわたるため、各教員が科目の特性に応じて一斉学習形式の講義のみならず、演習や実習、アクティブラーニングなどの教育方法を導入する。

3. 評価方法

科目の特性に応じて、提出課題、アチーブメントテスト、プレゼンテーション等の結果を適切に評価し、一人ひとりの伸長度を加味した上で総合的に評価する。

外国語科目（英語）の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

英語教育を通して、アカデミック・スキルズを修得し、さらに現在のグローバル化した世界情勢を踏まえながら、異文化理解能力、批判的思考力（クリティカル・シンキング）、および自国の文化をも相対的に見ることのできる視点の醸成を目的とする。同時に自分の意見を発信し、これによって能動的な多文化共生社会の担い手となることを目指す。

そのため、以下に述べるような特色を持つ英語教育課程を編成・実施する。

1. 教育内容

- (1) 英語科目は、各学部各学科にこれを設置し、各学科および各学年の特性に合わせた英語運用能力の育成を図る。
- (2) 英語の四技能（「聞く」・「読む」・「話す」・「書く」）の育成を通して、後の各自の学びや専門教育につながるアカデミック・スキルズの修得を目指す講義科目を開設する。
- (3) グローバルな視野で異文化を理解し、多文化共生社会を推進する能力を養成するとともに、批判的思考（クリティカル・シンキング）を通して自分の意見を論理的に述べる能力を養成することを目的とする講義内容を展開する。

2. 教育方法

- (1) 必修科目では主に基礎的・総合的な英語運用能力（聞く・読む・話す・書く）の向上とアカデミック・スキルズの修得に、また選択科目では目的やレベルに応じた英語運用能力（語学検定試験対策や時事英語など）の向上に力点を置いた指導を行う。
- (2) 海外留学および語学研修は、その機会をさまざまに設け、これを奨励するとともに、事前事後の学習指導を綿密に実施し、学習者がその機会をより有意義なものにできるよう支援する。
- (3) コンピューター支援言語学習（CALL）やeラーニングなどコンピューターを利用した教育、国際色あふれる外国人講師による授業などを設置して、一人ひとりの到達度に応じた学習の場、国際的な知見を養うためのコミュニケーション実践の場を提供する。
- (4) 授業のためのクラス編成は、少人数クラス及び習熟度別クラスを原則とし、双方向的な学習環境の整備に留意する。

3. 評価方法

科目の特性に応じて、提出課題、アチーブメントテスト、プレゼンテーション等の結果を適切に評価し、一人ひとりの伸長度を加味した上で総合的に評価する。

外国語科目（英語以外）の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、古典ギリシャ語、ラテン語、タイ語、インドネシア語、コリア語の計 12 言語の多彩な外国語の授業を展開し、グローバル化が進む社会生活の中で一層重要度を増す外国語の運用や異文化理解の能力を有する人材を養成することを目的とし、以下のような特色を持った外国語教育課程を編成・実施する。

1. 教育内容

- (1) 多様なクラス編成を通じて、聞く・読む・話す・書くという外国語の総合的な運用能力を高めるとともに、学生と教員、学生同士の対話の機会を多く設け、自ら思考し、意見を述べる姿勢を培う講義科目を設定する。
- (2) 外国語の修得を、学生が自己と向き合う成長の過程と位置づけ、自国の言語や文化を客観的に見直す機会とする。

2. 教育方法

- (1) 外国語科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。
- (2) 少人数のクラス編成により、学生と教員、あるいは学生同士が対話する機会を多く設ける。
- (3) 基幹となるドイツ語、フランス語、中国語において、基礎・初級・中級・上級のクラスを設置し、効果的、集中的かつ段階的に外国語を教授する。
- (4) 中国語においては「強化クラス」を設置し、効果的かつ集中的に中国語を教授する。
- (5) コンピューター支援言語学習（CALL）を積極的に導入し、音声や画像などマルチメディア教材を介して、個々の理解や達成度に合わせた教育を行う。
- (6) 海外留学および研修の機会を設けるとともに、語学検定試験の受験を奨励することで、外国語学習の意欲を高める。
- (7) 語学検定試験受験を奨励し、その合格級・取得点数等を勘案する。

3. 評価方法

科目の特性に応じて、提出課題、アチーブメントテスト、プレゼンテーション等の結果を適切に評価し、一人ひとりの伸長度を加味した上で総合的に評価する。

保健体育科目の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

講義科目については、健全で有意義な学生生活を送るための基本となる健康管理について、その基礎的な知識と実践能力の習得を目指す。

実技科目、野外実習については、選択した種目の技術、ルールを習得するとともに、他の学生と円滑にコミュニケーションを図ることを目的とする。

そのために、保健体育科目の教育課程は、次のような特色を持つ。

1. 教育内容

- (1) 講義科目（健康スポーツ科学）を通して、学生が健康科学についての基礎的な知識を得て、各人の健康管理や健康水準の維持・増進に役立つ知識・技能の修得を目指す。
- (2) 実技科目（総合体育、体育実技）を通して、学生がストレスケアとしても有効な身体活動を定期的に実践し、自らの健康水準の維持・増進を目指す。
- (3) 野外実習（スキー、スクーバダイビング）を学外での合宿形式の集中授業として実施し、学部・学科の壁を越えた受講生間の深い人間関係の構築を目指す。

2. 教育方法

- (1) 講義系科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- (2) 実技科目においては、スポーツ、身体活動を展開するとともに、学生同士の学び合いの機会を提供する。
- (3) 野外実習においては、各種目に関する知識、技能を習得させるとともに、活動の場となる自然環境への配慮について考える機会を提供する。

3. 評価方法

健康・スポーツに関する各自の実践を勘案し、運動技能の現状、並びにその伸長度、運動技能に関わる知識、表現力等を測定し、総合的に到達度を評価する。